

全労金2021春季生活闘争ニュース・第18号

【全労金2021春季生活闘争統一スローガン】
今こそ全国の仲間と想いをひとつに！心は密に団結を！

《合意速報No. 2》

沖縄労組が金庫との団体交渉で、「基本合意」を表明しました！

沖縄労組は、3月16日9時から、金庫と「団体交渉」を開催し、基本合意を表明しました。要求と回答は以下の通りです。

		沖縄労組			沖縄労組		
		要 求			回 答		
		正職員	準職員S	準職員	正職員	準職員S	準職員
基本賃金		1～2等級の能力給 1,000円引き上げ 3～6等級の能力給 初任、上限、下限額 1,000円引き上げ	能力給 1,000円引き上げ		要求通り	要求通り	
年間一時金		4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5
昨年実績		4.35	4.05	4.05	4.35	4.05	4.05
統一退職金		—	勤続ポイント5%から15%へ 引き上げ		—	勤続ポイント5%から10%へ引き上げ	
職場環境	所定労働短縮	要求（小学校卒業まで）			要求通り		
	その他	子ども手当の改善 5,000円から6,000円に引き上げ 対象者の範囲を「就学等の場合に限り、満22歳到達年度の3月 末までの子」に拡充			要求通り		

団体交渉において、金庫からは「新型コロナウイルス感染症の影響により、2月末まで計3回にわたり交替勤務・スプリット勤務を実施し、現場の中でも難しい状況が続いてきたと思う。その中でも、様々な取り組みや事業計画目標の達成、店舗の運営を行ってきたことは、例年以上に職員が奮闘してきた結果であり、今日まで滞りなく業務運営をしてきていることについて、重ねて感謝申し上げたい。今春闘の回答は、単年度で応えていかなければいけないことや、次年度以降も継続的に取り組む課題に対して、今後の金庫経営への影響を踏まえて回答している。次年度以降も継続的に取り組む課題に対しては、段階的にステップアップさせていく等、課題を整理したうえで対応していきたいと考えるので、是非ご理解いただきたい。労働組合としても、現在の社会情勢による格差の広がりや貧困問題、労働環境の劣化について目の当たりにしていると思う。新型コロナウイルス感染症の影響がまだ続いていく中でも、私たち労働金庫としての社会的役割発揮に向けて、労使で認識を合わせて対応していきたい」等の見解が表明されました。

漢那闘争委員長は、「この1年間、組合員一人ひとりが、日々、不安と闘いながら業務にあたってきた。3度の緊急事態宣言発出による交替勤務など、業務制限がかかり、心身に非常に大きな負担のかかる状況もあった中で、1月末の月次決算見込みで増収増益が事実であることや、個人融資増加額が過去最高値であることは、まぎれもなく職員の奮闘によるものである。この間の交渉を通じて、金庫から、『その奮闘に応えていきたい』と早

々に表明があったことは、組合員が報われるものであり、評価できるものと捉えている。組合の要求に対し、満額回答ではないという点で十分とは言えないが、次年度や2021年4月から始まる第6期中期経営計画への期待が感じられる回答であり、職員のモチベーション向上に資するものであると受け止め、基本合意を表明する。

コロナ禍において、社会経済情勢は不安定なものとなっている。そのような状況だからこそ、福祉金融機関である労働金庫としての役割を最大限発揮していかなくてはならない。そのためには、沖縄労金で働くすべての職員が、労働金庫の職員として自信と誇りをもって労働金庫事業に邁進していくことが重要であると認識している。『人への投資』は、沖縄労金で働くすべての職員が、自らが金庫にとって大切な財産であることを実感し、福祉金融の担い手として地域や会員・勤労者の満足・幸福度向上に尽力するために必須となる。次期中計にて謳っている『労働者福祉の向上を通して地域への貢献・活性化に寄与していく』ためにも、労使で精力的に対話を重ねていくことを確認したい。

最後に、2021年度以降も沖縄労金が永続的に発展していくため、労使で知恵を出し合い収益改善に取り組み、職員一人ひとりが、これまで以上に奮闘する必要がある。課題は山積しているが、その課題解決に向け、引き続き労使で活発に議論し、沖縄労金で働くすべての役職員がこれまで以上に希望と誇りをもって考動していくことを労使共通の認識としたい。それらを通して、組織風土改革が図られ、沖縄労金で働くすべての役職員が『働きがい』を持ち、安心して働き続けられる組織風土となっていくと考える。労働組合としても、全組合員が一丸となり全力で取り組んでいく」等を表明しました。

単組は、①基本賃金の改善、年間一時金、統一退職金制度の改善、所定労働時間の短縮措置の取得範囲の拡大、子ども手当の改善のすべての要求項目に対して満額・有額回答を得たこと、②金庫が、要求内容および主旨に真剣に向き合い、金庫として最大限の評価の表れであると受け止めたこと、③基本賃金、一時金については、前年度実績を上回り、退職金については、昨年に引き続き引き上げを実現することができたこと、等から基本合意を表明しました。

*合意単組（2単組／3月16日12時30分現在）

近畿(金庫)・沖縄

以 上